

令和4年度 学校評価 結果分析

【生徒対象アンケート】

概ね肯定的にとらえていることが見て取れる。わからないとする回答率は学年進行で減少する傾向があり、高校生活の経験度に依存していると思われる。

- 昨年同様に回答方式を Microsoft Forms を用いた一斉回答とした。
- アンケート全体において、昨年と大きな変化は見られなかった。
 - 向上した：17項目、低下した：16項目、変化なし：3項目
 - 肯定群（A+B）で昨年比5%以上変化したのは、2項目であった。
 - 「5 家庭で学校に関する話をしている」：-6%
 - 「1 5 本校の先生は授業や家庭学習への指導・支援を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」：-5%
- 肯定群が9割超と特に多い項目は、1項目であった。
 - 「4 本校からの連絡文書等は保護者に届けている」：A+B90%
- 肯定群（A+B）が8割超の項目は、13項目であった。
- 過半数の生徒が強く肯定している項目には、本校の教育で力を入れているものが含まれている。
 - 「1 4 テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」：A53%
 - 「3 4 学校は「あいさつ・時間・身なりを整える」指導に取り組んでいる」：A53%
 - 「3 5 学校は外国につながる生徒の学習支援に力を入れている」：A52%
- 強い肯定群（A）が比較的低い項目として以下のものがある。
 - 「2 8 清掃が行き届いており校内がきれいである」：A36%
 - 「3 0 ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している」：A37%
- 否定群（C+D）が2割超と比較的多い項目は、1項目であった。
 - 「5 家庭で学校に関する話をしている」：C+D24%
- 強い否定群（D）が最も多かった項目は以下のものである。
 - 「1 2 本校では体罰はない」：D7%
- 不明群（E）が2割超と比較的多い項目は、1項目であった。
 - 「1 3 本校の先生は働き方改革に努めている」：E22%

【保護者対象アンケート】

- 昨年度は Microsoft Forms を用いた回答形式で、回答率が極めて低かった。そのため、今年度は三者懇談の際に担任より質問紙を配付し、後日提出していただいた。回答率に4倍の隔たりがあり、単純な比較はできない。
- 肯定群が9割超と特に多い項目は、23項目であった。
- すべての項目で、肯定群が8割超と多かった。
- 強い肯定群（A）が8割を超えていたのは、1項目であった。
 - 「1 0 一斉配信メールサービス「すぐメール」は有効に活用されている」：A83%

□ 強い肯定群（A）が比較的多い項目には、本校の教育で力を入れているものが含まれている。

「34 学校は「あいさつ・時間・身なりを整える」指導に取り組んでいる」：A72%

「35 学校は外国につながる生徒の学習支援に力を入れている」：A75%

□ 保護者との直接の対応に係る項目として以下のものがある。

「7 学校は、保護者の悩みや相談に適切に対応している」：A63%

「13 学校を訪問したり、電話したりしたときの教職員の対応（挨拶や話し方）が適切である」：A73%

□ 否定群が1割超の項目は、1つもなかった。

□ 不明群が2割超の項目は、1つもなかった。最も多い項目で16%であった。

「17 学校の教職員は働き方改革に努めている」：E16%

【生徒と保護者の比較】

全体として、生徒に比べて保護者の方がより肯定的にとらえている傾向がみられる。これは、否定的な回答が少ないことに加え、わからないという回答も少ないことによる。

□ 生徒と保護者で概ね共通の質問項目のうち、肯定群の差異が特に小さかった（5%以下）のは2項目である。

「学校からの連絡文書は、保護者に届けている（届けられている）」：差2%

「本校に入学できてよかったと思っている（お子様はよろこんで学校に行っている）」
：差5%

□ 概ね共通の質問項目のうち、生徒と保護者で肯定群の差異が20%以上と特に大きかったのは項目に以下のものがある。この項目では1年生の生徒で不明群が22%と多かった。

「地震や台風等の場合の対応について、対策マニュアルが知らされている。」

生徒：A+B74% 保護者：A+B95%